

# ちょっと ブレイク しませんか?

## 第40回 「悪魔の美しさ」(1948年仏蘭西)



イソップに「人間の寿命」と題する寓話がある。

ゼウスは人類を創造した時、それを命短いものになさった。しかし、人間は知恵を働かせて、冬が来ると自分で家を作り、そこに住んでいた。ある時、凍てつくような寒さに雨さえ降りまじり、馬が我慢できずに人間の所へ駆けて来て、宿を貸してほしいと頼んだ。すると人間は、寿命の一部を分けてくれない限り、貸してやらない、と答えた。馬は喜んで譲り渡したが、しばらくすると牛が、これまた嵐に耐えきれずやって来た。今度も人間は、寿命の幾分かを差し出すまでは入れてやらない、と言ったので、牛も寿命の一部を提供して泊めてもらった。最後に犬が、凍死寸前でやって来て、自分の時を分け与えて宿にありついた。こういう訳で人間は、ゼウスが決めた寿命の間は純真で善良なのに、馬から貰った年になると鼻息荒い高慢ちきとなり、牛の年に達するともう厄介者、ついに犬の時に入った者は怒りっぽくけんけんとなる、ということになった。

今回紹介するのは七十年も昔の映画だ。

巨匠ルネ・クレール監督はゲーテの戯曲によらずファウスト伝説により独自の構想で映画「悪魔の美しさ」(仏蘭西)を製作。その物語は十九世紀初頭の某公国。大学教授ファウスト博士は半世紀に及ぶ禁欲的学究生活の甲斐もあり積学と称賛されたが、寄る年波には勝てず、忍びよる老いに憂いていた。その弱みにつけこみ、青春を取戻せと幻惑する悪魔の手下メフィストは博士を説き伏せ、魂を売り渡す代償に老いぼれを魅力的な青年アンリの姿に変える。若いアンリ・ファウストはジブシー娘との恋に落ちるが、博士の失踪を知った警察はアンリを犯人と誤認逮捕してしまう。幸い法廷に老博士に化けたメフィストが現れアンリは釈放されるものの、彼はメフィストの意のままに砂を金に変える魔法を会得し、国一番の(=金持)となる。しかしアンリは依然として魂を売る契約書署名を拒絶するために、怒ったメフィストに全ての能力を奪われる。驚いたアンリは遂に契約書に署名し魂を売り渡し、暗い未来で絶望寸前になりながら、ジブシー娘との恋に望みを賭けた。憤慨したメフィストは国中の金を砂に戻した上、ジブシー娘を魔女として告発する。だがジブシー娘の魂は既にアンリに囚われ、もはやメフィストになす術なし。ジブシー娘から得たファウストの署名を見た民衆が、悪魔の手下メフィストをバルコニーから転落させ抹殺する。ようやく暁が訪れ、アンリはジブシー娘との愛の生活に旅立つのだった。

誰しも永遠の若さを望むが老いは不可避、しかし老いて益々盛んという性豪も稀にいるから人間界は面白い。青年に老いの理解は難しいが、熟年になると少し分かり、老年になると自然に体現できる。

本年創立40周年のMMEG、いつもお世話になっております。綾小路流に御礼の言葉を記せば「あれから四十年、謹んでお慶びを申し上げます」

不惑の四十歳、粛々淡々に留まらず新鮮・希望・感動も忘れないで欲しい。とはいえ、若さ以外に何の魅力もない上っ面の美貌だけでは力不足だ。

鼻息の荒い高慢ちき、厄介者、怒りっぽくけんけんは一体何歳なのかは知らないが、「人間の寿命」を説いたイソップ寓話、老いに抗う人間を描いた映画「悪魔の美しさ」などの文芸には人類の叡智が凝集されている。



かゆかわ ゆうへい  
粥川 裕平  
(精神科医・映画評論家)

名古屋工業大学 名誉教授  
かゆかわクリニック院長